

**箕面市地域公共交通活性化協議会
第5回分科会**

平成21年11月

目次

序．はじめに

前回の検討内容の確認と積み残し内容

- 1．運行計画（修正）案**
- 2．収支の検討**

評価基準の検討

- 3．評価基準の考え方**
- 4．市民の意向**
- 5．評価の流れ**
- 6．目標の設定**
- 7．評価（見直し）基準**
- 8．調査の方法**

利用促進策の検討

9 . 利用促進策の考え方

10 . 市民の意向

11 . 事例の紹介

今後のすすめ方

序 . はじめに

■ 今までのバス交通

民間の交通事業者が支えてきたが、どうしても採算性や効率性が優先され経営されてきた。利用者もバスに乗るだけの「乗客」意識だけであり、また、車への利用に転換してきた。そのため、利用者減少 収入低下 利用者減少の悪循環に陥り、バス交通の弱体化が進行している。

■ 新たなバス交通の維持・発展

利便性と採算性・効率性の両面を、利用者である住民、交通事業者、行政が共に十分理解し、限られた財源の中で維持・発展させていく必要があります。

また、利用者である住民は「バス交通を支える主体」としての意識を持って次の役割を担ってもらうことが重要となります。

自発的な行動変革（自らが乗って、バスを維持発展させる意識と行動）
地域の底力の発揮（公共交通について地域で考え行動）

前回の検討内容の確認と 積み残し内容

1. 運行計画（修正）案

市民の意向を反映した案との比較

住民説明会での意見等をもとに市民の意向を反映した案との比較・検討を行いました。

- 西部北ルート
- 西部南ルート
- 北部ルート



「市民の意向を反映した案」

東部北ルートと東部南ルートで
調整が必要な箇所が発生しました



今から引き続き検討を行います

- 中部ルート
- 東部北ルート
- 東部南ルート



一部内容を「分科会案」に戻す

乗り継ぎの改善、一部区間の見直しなどの付帯意見あり

2. 収支の検討

基本運賃、割引運賃、その他収入の検討

需要予測、運行経費、収支目標を踏まえて、必要な収入を確保するための方針（運賃体系など）を検討しました。

● **基本運賃** 200円

● **割引運賃**

高齢者 100円

小児 100円（半額）

障がい者 100円（高齢者と同じ）

その他 新しいバス同士の乗り継ぎ割引、
普通回数券、定期券

割引の適用年齢で意見が分かれました
乗り継ぎ割引の割引額、回数券・定期券の利用範囲がまだ決まっています

今から引き続き検討を行います

「新しいバスと箕面森町線の乗り継ぎ割引」および「1日乗車券」については今後の検討項目とする

● **その他収入** 広告、ネーミングライツ、協賛金
市内駐車場の有料化 など

評価基準の検討

3 . 評価基準の考え方

評価基準の基本的な考え方

実証運行では、新しいバスのテーマ・コンセプトである「市民に愛され使いたくなるバス」を実現していくために、年度毎に運行実績に対する評価を行います。

このため、実証運行にあたっては、単に採算面だけではなく、関係者がこれまでどのような行動・取り組みを実施してきたのかといった**多角的な視点で検証を行うために**、さまざまな**目標**を設定します。

評価基準は、こうした**目標の達成度に対して、どのような見直しが必要なのかを判断する**ための重要な基準となり、改善（充実）計画を検討する方向性を定めます。

4 . 評価基準の事例（1）

全国の事例

● 収支率

50%以上（兵庫県明石市、加古川市）

40%以上（群馬県、東京都港区（実証運行期間中））

30%以上（千葉県市川市）

● 平均乗車密度（1kmあたりの平均）

1.0人以上（栃木県佐野市）

● 乗車率（バス停勢圏あたり）

3%以上（兵庫県加古川市）

● 利用率

65%以上（千葉県市川市（沿道の住民））

（「利用したことがある」＋「今後利用する意思あり」）

● その他

定性的な評価基準を設置している場合もある

・交通手段の確保 ・まちづくりの動向 ・地域活性化 など

4 . 評価基準の事例 (2)

兵庫県のコミュニティバス・アセスメント指針

- 運行事業の評価

沿道のバス停勢圏人口 : 1 %以上

利用者1人あたりの助成額 : タクシー運賃の5割以下

- 運行ルートの評価

運行所要時間40分以内、かつ運行距離20km以内

- 部分的改善項目の評価

収支率 : 50%以上

(50%未満の場合は「路線バスなみの運賃水準」に近づける)

5 . 評価の流れ

目標の設定

実証運行の評価を行うための目標を設定します。

実証運行時の調査

目標の達成度を測るために必要な調査を実施します。

評価の実施

目標に対する調査結果について、あらかじめ設定した評価基準に基づいて評価し、見直しの方法を選択します。

改善計画の検討

運行実績、調査結果及び評価(見直し基準)に基づき、改善計画を検討・作成します。

実施

6 . 目標の設定

設定を行う目標の項目

- 収支率

運行計画を評価するための目標

全国の事例：50%、40%、30%など

- 利用率

利用促進策の取り組み成果などを評価するための目標

市民アンケート結果：路線バス 55%
(H18年度⁽²⁰⁰⁶⁾) Mバス 18%

- 認知度

情報提供のあり方などを評価するための目標

市民アンケート結果：路線バス 83%
(H18年度⁽²⁰⁰⁶⁾) Mバス 39%

7 . 評価（見直し）基準

実証運行に伴う運行実績や各種調査結果を踏まえ、新しいバスの拡充・改善のための運行計画の見直しを検討します。
見直しの検討を行う基準として、以下の内容を設け、設定した基準値に該当するものについては、拡充や改善の検討を行います。

運行ルートの見直し（バス停・1日の利用者数）

運行便数の見直し（バス1便の利用者数）

割引運賃の見直し（収支率）

8 . 調査の方法

調査の種類

- 市民アンケート調査
利用率や認知率を把握するために実施します
- バス利用者アンケート調査
利用状況の把握や今後の利用ニーズを把握するために実施します
- バス乗降調査
運行サービス等の見直しを行う場合の基本的な利用者情報として把握するために実施します
- バス事業収入調査
運賃収入、収支率を把握するために実施します

利用促進策の検討

9 . 利用促進策の考え方

利用促進策の意義

利用促進策は、バス利用者の確保や需要の喚起を図り、運行サービスを維持・発展させて、新しいバス交通の検討にあたって制定したテーマ・コンセプト「市民に愛され使いたくなるバス」を実現していくことに意義があり、そのための大きな作戦なのです。

目指す方向性

テーマ・コンセプトを実現するための利用促進策であるため、他都市の事例を参考にしながら、箕面市であれば効果が期待できる内容、関係者が連携しながら取り組むことができる内容を検討します。すなわち、「箕面市らしい利用促進策」を考えて実践していくことを目指します。

10 . 市民の意向（1）

バス利用者意識調査

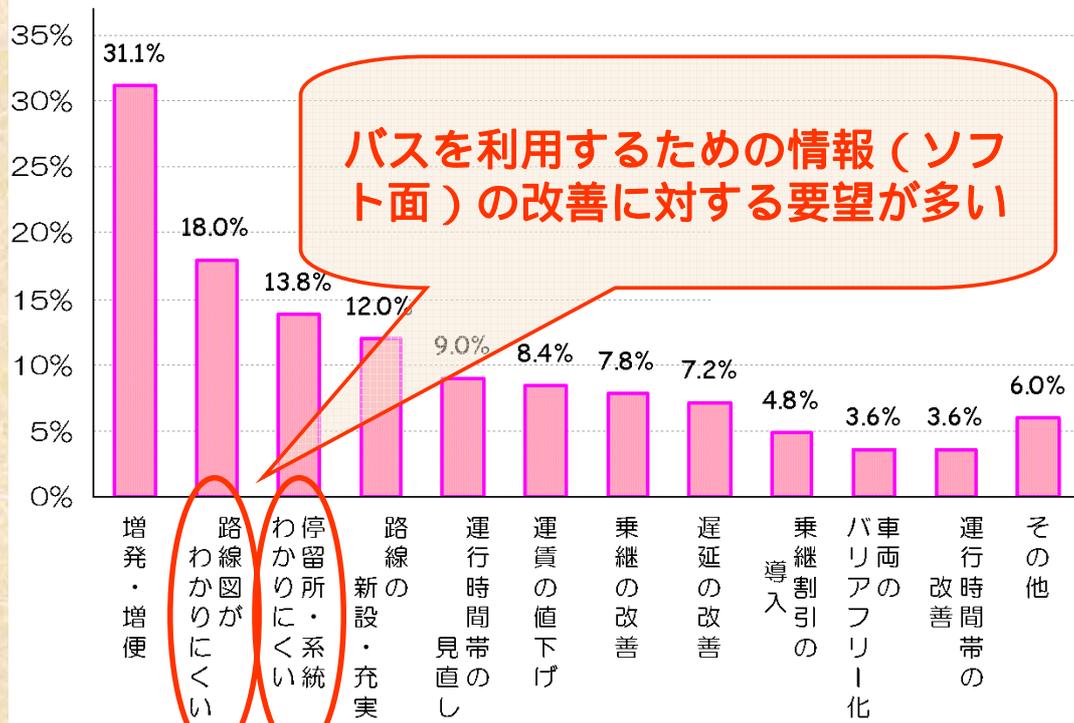


平成20年度バス利用者意識調査（2008）

箕面市交通ネットワーク活性化検討協議会報告書 より

10. 市民の意向 (2)

非バス利用者意識調査



平成20年度 簡易TFP調査・桜ヶ丘地区 (2008)
箕面市交通ネットワーク活性化検討協議会報告書 より

10. 市民の意向 (3)

自治会意向調査

	運行本数を増やす	運行時間帯を延長する	路線を新設または充実する	公共施設以外の利用(買物等)で乗れるようにする	鉄道に乗継ぎができるようにする	バス・バスの乗継ぎを改善する	バス停の位置をわかりやすくする	バスの運行コースや路線図をわかりやすくする	バス停に雨よけ・ベンチを設ける	乗降がしやすいノンステップバスにする	決まった時間に目的地に着けるようにする	その他	無回答
西部	53.5%	16.3%	51.2%	47.7%	17.4%	30.2%	10.5%	20.9%	25.6%	14.0%	5.8%	17.4%	3.5%
中部	37.8%	16.2%	43.2%	56.8%	21.6%	18.9%	18.9%	29.7%	27.0%	16.2%	5.4%	16.2%	5.4%
東部	62.3%	22.6%	56.6%	39.6%	7.5%	13.2%	15.1%	20.8%	20.8%	9.4%	7.5%	18.9%	3.8%
北部	50.0%	0.0%	100%	100%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	0.0%

公共交通の利便性の改善(連携)を期待する要望が多い

バスを利用しやすい環境・情報の改善を求める要望が多い

10. 市民の意向(4)

住民説明会の意見

- 商業者との連携を図ってほしい。
- バスの運行情報がわかるようにしてほしい。
- 市民にわかりやすい情報提供を行ってほしい。
- 公共交通を地域住民が支えていくという意識を高めていくことが必要だ。
- クルマを使わなくても、より便利に利用できるように公共交通同士でもっと連携を図ってほしい。
- 乗り継ぎやバス待ちの時に上屋やベンチがあると利用しやすい。

など

11. 事例の紹介

ジャンル(項目)の紹介

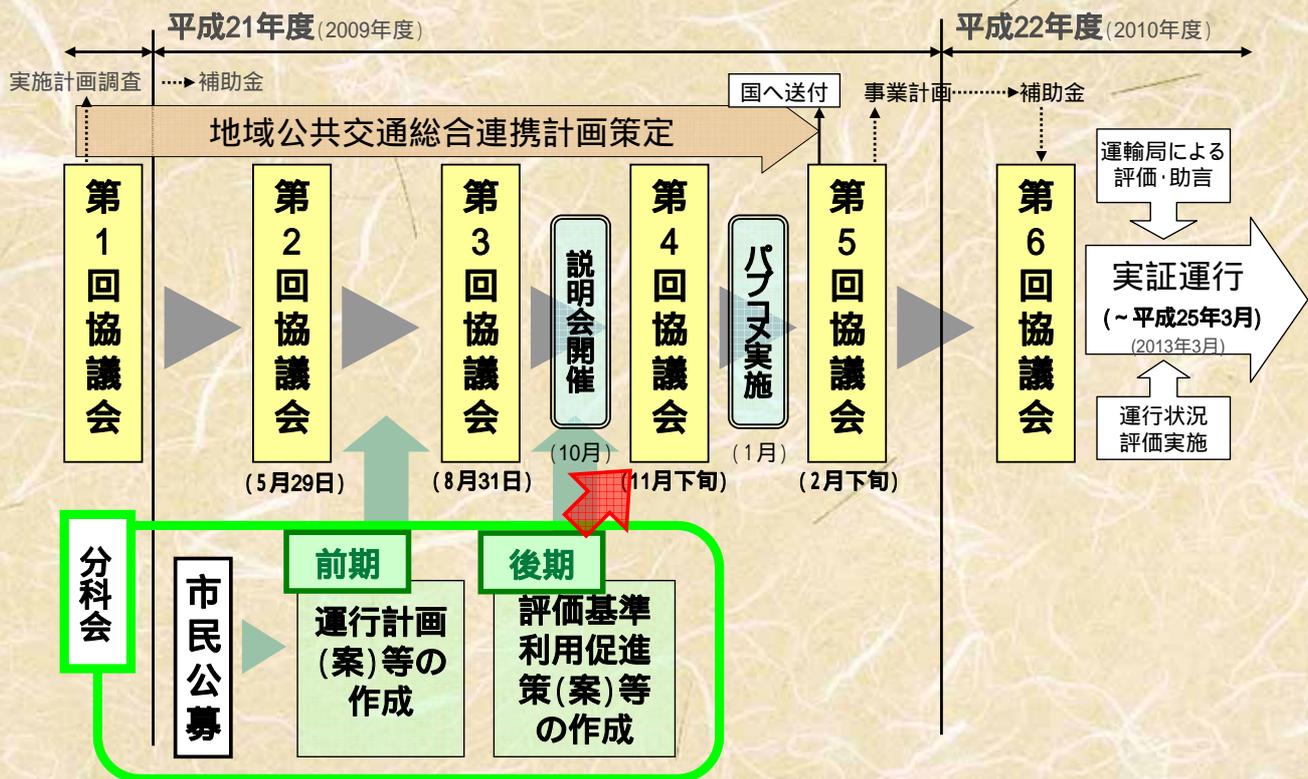
- 運行開始に伴う各種イベント等
- 積極的な情報発信・広報活動
- 公共交通の利用啓発活動
- 魅力的な利用促進イベント
- 住民との連携
- 情報サービスや設備の充実
- 商業施設との連携
- 他のモードとの連携
- 地域との連携
- その他



ハード、ソフト(情報、連携、イベント・その他)ごとに検討します

今後のすすめ方

全体スケジュール



市民が主役・市民が支えるバスを目指して

分科会の冒頭でも述べましたが～

■ 新たなバス交通について

利便性と採算性・効率性の両面を、利用者である住民、交通事業者、行政が共に十分理解し、限られた財源の中で維持・発展させていく必要があります。

また、利用者である住民は「バス交通を支える主体」としての意識を持って次の役割を担ってもらうことが重要となります。

自発的な行動変革（自らが乗って、バスを維持発展させる意識と行動）

地域の底力の発揮（公共交通について地域で考え行動）

市民が主役・市民が支えるバスを目指して

運行計画案を検討するための
分科会はこれにて終了しますが～

市内の公共交通のあり方、新しいバスを支えていくために、今後とも一緒に考えて行動してもらえる市民の協力・自主的な活動（応援）が必須です。

今後とも、新しいバスのあり方を考えたり、市民が積極的にバスを利用できるような活動を行ってもらえる

箕面市民における
「新しいバスを一緒に考え、支えるネットワーク」

を是非ともみなさまの中から、有志で結成していただければと思います